

(3) 授業の質的改善のプロセス**ア A校の実践（第1学年）****(ア) 意識調査を基にした分析**

日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点から質的に改善をするために、A校の第1学年の生徒の実態を把握する必要がありましたので、6月に意識調査を行いました。

- ・「社会の勉強は好きだ」と、78.8%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業の内容はよく分かる」と、86.5%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分で調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している」と、86.5%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」と、81.7%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思う」と、67.3%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」と、92.3%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分が調べて分かったことや考えたことを基に話し合っている（討論している）」と、76.9%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」と、80.8%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で扱うノートやワークシートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う」と、91.3%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている」と、86.5%の生徒が回答しました。



上記のような意識調査の結果から、社会科の授業が好きで、調べたり考えたりすることをはっきり分かって学習できており、発表する機会も多く与えられていると思っている生徒が多いことが分かりました。また、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思っている生徒も多かったです。しかし、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思っている生徒が多いことも分かりました。

以上のことから、授業の学習課題を確認し、話し合う活動や討論をしながら課題を追究することはできていると考えられます。一方で、自分の考えを文章に表現したり、理論立てて説明したりすることに課題が見えました。

(イ) 6、7月の実践

この生徒の実態を踏まえながら「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリストを用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（資料1）。まずは、「課題把握」の項目の「生徒と共に単元を貫く学習課題を設定していない」、「単元の見通しを持たせていない」、「課題追究」の項目の「複数の資料を基に多面的・多角的に考察させていない」ことについて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表から必要と思われる手立てを選択しました（資料2）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時の学習課題を設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元を貫く学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題についてノートやワークシートなどにまとめさせている	✓	C②③
生徒と共に単元を貫く学習課題を設定している		A③	複数の資料を基に多面的・多角的に考察させている		B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しを持たせている		A④						
予想や仮説を立てさせている		A⑤	自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合わせている		B⑤	結論について他の生徒と話し合わせている		C⑤⑥
			複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い(課題)を見いださせている		C⑦

資料1 6、7月のA校第1学年の教師の指導の自己評価

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時の学習課題を設定する A② 資料や写真を提示して問いを持たせ、単元を貫く学習課題を設定する A③ テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる		B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から考えさせる B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモさせる B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、自分の考えを深めさせる		C① 問い返しをしながら授業のまとめをする C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめさせる C③ 自分の考えの根拠となる資料を示させノートやワークシートにまとめさせる C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返らせる C⑤ 結論についてグループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめさせる C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えさせる C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげる	

資料2 6、7月のA校第1学年の教師の指導の自己評価を踏まえて取り入れた手立て

〔課題把握〕について、「生徒と共に単元を貫く学習課題を設定していない」ことについては、前頁資料 2 の A③の「テレビのニュースや新聞等を活用した身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する」の手立てを、「単元の見通しを持たせていない」ことについては、A④の「学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる」の手立てをそれぞれ取り入れることにしました。〔課題追究〕について、「複数の資料を基に多面的・多角的に考察させていない」ことについては、B④の「個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から考えさせる」の手立てをそれぞれ取り入れることにしました。

これらの手立てを取り入れて、以下のように授業の質的改善を図りました。

単元名 「世界各地の人々の生活と環境」(帝国書院 pp.14-31)

- ・電子黒板を活用して資料を提示したり、テレビのニュースや新聞記事等から得ている世界各地の人々の生活や環境について生徒に発表させたりして問い返しをしながら、生徒とともに単元を貫く学習課題を設定する。【A③】
- ・単元を貫く学習課題を設定した後、生徒に見通しを持たせるためにワークシートを活用してゴールをイメージさせる。【A④】
- ・ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示して多面的・多角的に考えさせる。【B④】

単元の指導の実際

過程	主な学習活動	教師の働き掛け (○)、手立て (◆)	時配
課題把握	○地図帳や雨温図を読み取り、世界の気候帯を大観する。	○地図帳や雨温図から世界の気候帯について特色や分布を読み取らせることで、その多様性に気付かせた。	1
	○世界各地の人々の生活について追求する単元を貫く問いを設定する。	◆多様な気候帯の特色から、そこで生活する人々の生活について想起させることで、単元を貫く問いに導いた。【A③④】	
	〔単元を貫く学習課題〕 なぜ気候帯によって世界の人々の生活が異なるのか。		

<p>課題追究</p>	<p>○地図帳や教科書の写真、資料から、暑い地域の暮らしについて読み取り、まとめる。</p> <p>○地図帳や教科書の写真、資料から、乾燥した地域の暮らしについて読み取り、まとめる。</p> <p>○地図帳や教科書の写真、資料から、温暖な地域の暮らしについて読み取り、まとめる。</p> <p>○地図帳や教科書の写真、資料から、寒い地域の暮らしについて読み取り、まとめる。</p> <p>○地図帳や教科書の写真、資料から、高地の暮らしについて読み取り、まとめる。</p> <p>○世界各地の衣食住についての写真や資料を読み取り、気候と関連付けて考察させる。</p> <p>○世界の宗教分布を読み取り、宗教と生活の関わりについてまとめる。</p>	<p>○それぞれの気候の特色や人々の生活についてグループで調べさせることで、より多くの情報の収集をさせた。</p> <p>○グループ活動を継続的に行うことで、対話的な学習に慣れさせた。</p> <p>○気候帯による生活の違いについてまとめる項目を絞ることで、ポイントを分かりやすくした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境(地形・気候) ・衣服、住居、食事 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆個人で考える場を設定し、ワークシートに複数の写真や資料を提示した。 【B④】</p> </div>	<p>7</p>
<p>課題解決</p>	<p>○気候帯ごとの生活の違いについて、日本と比較し、学習内容を踏まえてまとめる。</p>	<p>○住んでみたい（行ってみたい）地域について、その地域の人々の生活や気候の特色との関連、日本との比較をしながら考察させた。</p> <p>○自分の考えを記述できるように、ワークシートに示した書き方やキーワードを示した。</p>	<p>1</p>

成果と課題

【成果】

- ・資料を提示したり、テレビのニュースや新聞記事等を活用して身近な例を取り上げたりして興味を持たせたので、生徒とともに単元を貫く学習課題を設定することができました。
- ・単元を貫く学習課題を設定した後、ワークシートを活用して見通しを持たせたのでゴールをイメージすることができていました。
- ・個人で考える場を設定し、ワークシートに示した書き方やキーワードを示したので、多面的・多角的に考えることができていました。

【課題】

- ・単元を貫く学習課題について、自分の考えを文章に表現することはできていましたが、自分なりの根拠を示して自分の考えを記述している生徒が少なかったため、根拠を明確にさせたり、それを基に記述できるようにするための工夫が必要だと思いました。また、継続して生徒と共に単元を貫く学習課題を設定していく必要があります。
- ・グループ内でメモを取る活動を取り入れたことで、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりすることが少しずつできるようになってはきましたが、個人差があります。
- ・簡単な問いに対しては答えることができるようになりましたが、問いの内容のレベルが高くなったときに対応できる力が身に付いていません。

(ウ) 9月の実践

6、7月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリストを用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（資料3）。6、7月の実践で成果のあった教師の手立てを継続して取り入れ、新たに〔課題把握〕の項目の「予想や仮説を立てさせていない」、〔課題追究〕の項目の「自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合せていない」、「複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させていない」ことについて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表から必要と思われる手立てを選択しました（資料4）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時の学習課題を設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元を貫く学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題についてノートやワークシートなどにまとめさせている	✓	C②③
生徒と共に単元を貫く学習課題を設定している	✓	A③	複数の資料を基に多面的・多角的に考察させている	✓	B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しを持たせている	✓	A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合せている		B⑤	結論について他の生徒と話し合せている		C⑤⑥
予想や仮説を立てさせている		A⑤	複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い(課題)を見いださせている		C⑦

資料3 9月のA校第1学年の教師の指導の自己評価

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時の学習課題を設定する A② 資料や写真を提示して問いを持たせ、単元を貫く学習課題を設定する A③ テレビのニュースや新聞等を利用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる		B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から考えさせる B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモさせる B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、自分の考えを深めさせる		C① 問い返しをしながら授業のまとめをする C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめさせる C③ 自分の考えの根拠となる資料を示させノートやワークシートにまとめさせる C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返らせる C⑤ 結論についてグループで話し合せていたことを基に、レポートなどにまとめさせる C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えさせる C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげる	

資料4 9月のA校第1学年の教師の指導の自己評価を踏まえて取り入れた手立て

〔課題把握〕について、「予想や仮説を立てさせていない」ことについては、前頁資料 4 の A⑤ の「学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる」の手立てを取り入れることにしました。〔課題追究〕について、「自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合せていない」ことについては、B⑤の「グループで、それぞれの考えとその根拠をメモさせる」の手立てを、「複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させていない」ことについては、B⑥の「グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、自分の考えを深めさせる」の手立てをそれぞれ取り入れることにしました。

これらの手立てと、6、7月に実践して成果のあった手立て（A③④、B④）を継続して取り入れ、以下のように授業の質的改善を図りました。

単元名 アジア州（帝国書院 pp. 34-48）

6、7月の実践の課題を受けての教師の手立て

- ・問いのレベルが高くなったときに対応できないという課題があったので、アジア州に日本が属することから日本とアジア州に関係の深い身近な例を挙げることで切実感を持たせて、学習課題を設定する。【A③】
- ・「なぜ近年アジアの経済に急激な成長が見られるのか」という単元を貫く学習課題の解決に向けて見通しを持たせた後、問い返しをしながら予想を立てさせてゴールをイメージさせる。【A④⑤】
- ・ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示して多面的・多角的に考えさせる。【B④】
- ・グループ内で、それぞれが発言した内容を聞き取らせてメモさせる。【B⑤】
- ・グループ活動を継続して仕組み、根拠を示して自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで多面的・多角的に考えさせ、自分の考えを深めさせる。【B⑥】

単元の指導計画

過程	主な学習活動	教師の働き掛け（○）、手立て（◆）	時配
課題把握	<p>○地図帳や資料から自然環境や人口について読み取り、アジア州を大観する。</p> <p>○アジア州の地理的特色について追究する単元を貫く学習課題を設定する。</p>	<p>○地図帳や統計資料からアジア州に関する基本的な情報や地形、気候、人口について読み取らせることで、その地域的特色に気付かせた。</p> <p>◆日本とアジア州に関係の深い身近な例を挙げることで切実感を持たせて、学習課題の設定につなげた。【A③④⑤】</p>	1
<p>〔単元を貫く学習課題〕 なぜ近年アジアの経済に急激な成長が見られるのか</p>			
課題追究	<p>○アジアの地域ごとの農業形態について、地図帳や教科書の資料から、気候と関連付けて考察し、まとめる。</p>	<p>○アジア州の地域ごとの気候と農業形態の違いを読み取らせることで、自然環境と農業形態の関連について理解させた。</p>	

<p>課題追究</p>	<p>○教科書、資料を読み取り、中国の急速な経済成長と現在の課題についてまとめる。</p> <p>○教科書、資料を読み取り、東南アジアの産業構造の変化についてまとめる。</p> <p>○教科書、資料を読み取り、南アジアのIT産業の成長について、地理的条件や文化と関連付けて考察し、まとめる。</p> <p>○教科書、資料を読み取り、西・中央アジアの経済状況について、原油の生産力と関連付けて考察し、まとめる。</p>	<p>◆グループ活動を継続的に行い、グループ内でそれぞれが発言した内容を聞き取らせ、メモさせた。 【B⑤⑥】</p> <p>◆中国の経済発展について、歴史的背景を踏まえてまとめさせることで、時代ごとの政策や成長過程の変化に気付かせた。 【B④】</p> <p>◆急速な経済発展の背景に起こっている環境問題や、国内での経済格差の諸問題について考察させることで、生徒の葛藤を促した。 【B④】</p> <p>◆工業化が進む東南アジアの産業構造の変化について読み取らせることで、日本の企業との関わりに気付かせた。 【B④】</p> <p>○ASEANについて触れておくことで、次単元で取り扱う「地域統合」についても周知させた。</p> <p>◆南アジアで急速にIT産業が発達した理由について考察させることで、国の政策やその国の文化と関連した発達に気付かせた。 【B④】</p> <p>◆西アジアの豊富な資源を生かした国づくりと資源に乏しい外国との関連が、西アジアの国々の経済成長につながっていることに気付かせた。 【B④】</p>	<p>5</p>
<p>課題解決</p>	<p>○学習したアジア地域を例に、急速な経済成長の成果と、それに伴う課題について多面的・多角的に考察し、経済成長の在り方を模索する。</p>	<p>○アジア地域の急速な経済成長の成果と、現在生じている課題についての生徒の葛藤を促した。</p> <p>○アジア地域と日本との関連についても考察のポイントとすることで、アジアの一員である日本の役割と諸外国に与える影響にも気付かせた。</p>	<p>1</p>

成果と課題**【成果】**

- ・単元を貫く学習課題の解決に向けて、ワークシートを活用して見通しを持たせていることで、グループ活動でも積極的に意見交換する姿が見られるようになり、スムーズにグループ活動を進めることができるようになってきました。
- ・ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示すことを継続することで、説明文の表現がより具体的な内容となり、自分の考えに根拠を示して記述できるようになってきました。

【課題】

- ・単元を貫く学習課題の解決に向けて見通しを持たせた後、全体で問い返しをしながら予想を立てさせましたが、個人で予想を立てさせることで、よりゴールをイメージさせることができるのではないかと考えられます。
- ・他の生徒の意見を聞いて、授業の最後に自分の言葉でまとめた記述に補足させましたが、自分の意見を消したり書き直したりしていて考えの深まりが見取りにくかったです。説明文に補足させる際には、補足箇所が分かるような手立てがあれば、より学習内容が深まると考えられます。
- ・全体の場で意見を共有したり、議論したりする場面の設定をすれば、多面的な見方や考え方を取り入れた考察ができると考えられます。